

## 《急告》

胃がんリスク層別化検査（いわゆる胃がんリスク検診、ABC検診）でA群と判定された方へ

認定NPO法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構

理事長 三木一正

胃がんはピロリ菌感染由来のがんです。「ピロリ菌感染の有無」と「胃粘膜萎縮の有無」の2項目の組み合わせで「胃がん発生リスク」を層別化することを「胃がんリスク層別化検査」といい、一般的には「胃がんリスク検診」、「ABC検診」と呼ばれています。

胃がんリスク層別化検査で、A群（ピロリ菌感染なし、萎縮性胃炎なし）と判定された方の中に、過去にピロリ菌感染のあった方（既感染）や、現在ピロリ菌感染のある方（現感染）が、10%程度含まれていることがわかりました。これらの方は、ピロリ菌に感染したことのない方（未感染）とは異なり、胃がんリスクが低くなくB・C・D群と同様に胃がんになる方もいます。

一般診療において、ピロリ菌検査はピロリ菌抗体価 10 未満を陰性（現在ピロリ菌感染がない）と判定していますが、検（健）診では、ピロリ菌抗体価 3 未満を陰性と厳しく判定することで、A群にピロリ菌既感染・現感染の方が混入することを大幅に減らすことが可能であることがわかりました。※

これまでに「胃がんリスク層別化検査（胃がんリスク検診、ABC検診）」を受診して、A群と判定された方は、早急に検査値をご確認ください。具体的には、ピロリ菌抗体価（ピロリ、ピロリ菌、HPなどと記載されている項目です）が、3以上10未満に該当する方は、ピロリ菌の既感染・現感染の可能性があるので、専門医に相談の上、一度胃内視鏡検査を受けることをお勧めします。結果が残っていない方や、A群やマイナス（-）などの記載のみで数値の記録がない方は、再度胃がんリスク層別化検査を受診し、ピロリ菌検査値を確認することをお勧めいたします。

なお、過去にピロリ菌除菌療法を受けた方は、胃がんリスク層別化検査判定の対象外です。ピロリ菌除菌後群（E群）として、専門医のもとで定期的な内視鏡検査を受けることを推奨します。もし除菌後に胃がんリスク層別化検査を受けて、A群に相当する数値であったとしても、ピロリ菌除菌後群（E群）となります。

※この数値は、「Eプレート‘栄研’H.ピロリ抗体II」という検査キットによって測定された場合です。過去の胃がんリスク層別化検査（胃がんリスク検診、ABC検診）のほとんどが「Eプレート‘栄研’H.ピロリ抗体II」で測定されています。